

みなとみらい産官学ラウンドテーブル第23回公開セミナー

平成26年12月5日(金)『みなとみらい産官学ラウンドテーブル第23回公開セミナー』が横浜国立大学成長戦略研究センター主催により、横浜文化情報センターにおいて開催されました。

今回は「医薬品および医療機器開発の新たな動きと今後の発展性」というテーマで、特定非営利活動法人ライフイノベーション総合支援機構 理事長、横浜市立大学大学院分子薬理神経生物学客員教授 棗田豊氏による講演を本学保健管理センター所長 大重賢治教授の司会進行で御願いました。

アベノミクスの第三の矢として、医薬分野でのイノベーションや健康寿命の延伸が掲げられていますが、日本の医薬界の課題として①基礎医学研究は欧米とともに世界をリードするレベルにある一方、橋渡し研究から治験実施・実用化に至る基盤が弱く、②治験が高コスト・非効率、③医薬品の臨床試験の実施基準(GCP)で国際基準と一部異なるダブル・スタンダードがあり世界同時開発・同時承認の流れから外れ、④新規性の高い医薬品や医療機器を扱う試験に携わる人材が育たない、⑤知識偏重教育でリサーチマインド・問題解決能力が未成熟といった問題点が指摘されています。

今後日本が健康医療産業分野で世界をリードするには、信頼度の高い臨床試験の国際基準ICH-GCPを低コストで実施できる体制構築と国際共同試験に参加する人材育成が必要です。

講演では最近の世界vs.日本の健康・医療分野での動向について、豊富な取組事例を交えて解説頂いた上で、ゲノム創薬や医療などの新領域を切り拓くには、①基礎的ライフサイエンス研究、②疫学研究基盤の活用、③社会実装に向けた先制医療モデル研究、④疾患毎に生活習慣・環境・経過所見・治療内容等に関する多様な臨床情報等を統合するデータベース(健康医療DB)を構築し解析するオールジャパンの基盤整備が重要との指摘がなされました。

さらにビックデータとICTネットワークを活用し、国内外の研究・臨床機関との連携を拡げ積極的な健康医療に関する研究開発への参画で、今後の国際競争力を強化する体制が求められます。

<フロアとの質疑>

1. 健康寿命延伸の先に見える医薬産業発展の方向性について御示唆を頂きたい。
⇒環境因子やライフスタイルも含むビックデータ解析で無仮説的に新たな知見が得られるかも。
2. 日本で医薬分野の開発スピードを速めるには何が必要でしょうか？
⇒オールジャパンで欧米と繋がるデータ基盤構築とコンソーシウムへの参加体制作りが重要では。
3. 薬剤の治療効果の検証データはあるのでしょうか？
⇒製薬メーカー等が情報公開を嫌がるが、産官学での信頼度の高い臨床データ共有が必要。
4. 先制医療の、どの段階で効果があるのか見極めるポイントは？
⇒ステージは疾患・個人で異なるが、バイオセンサーなどのデータ収集などで悪化する前に予防的に対処する方が治療効果は高い。またDB集積からモデル化し因子の国際比較解析等も重要。

【参加者のアンケートから】

42名が参加され、31名からアンケート回答を頂きました。
特徴的な意見を以下に掲載します。

- ・日本の実情と世界のギャップについて理解できた。
- ・広範な内容を概括されて、わかりやすい内容であった。
- ・医療データベースの重要性とクオリティーの確保の点がよく理解できた。
- ・国内の基盤研究の状況についてよく理解できました。
- ・世界の潮流、先進医療の具体例が興味深かった。

【セミナー会場の様子】

